

昭和十八年度

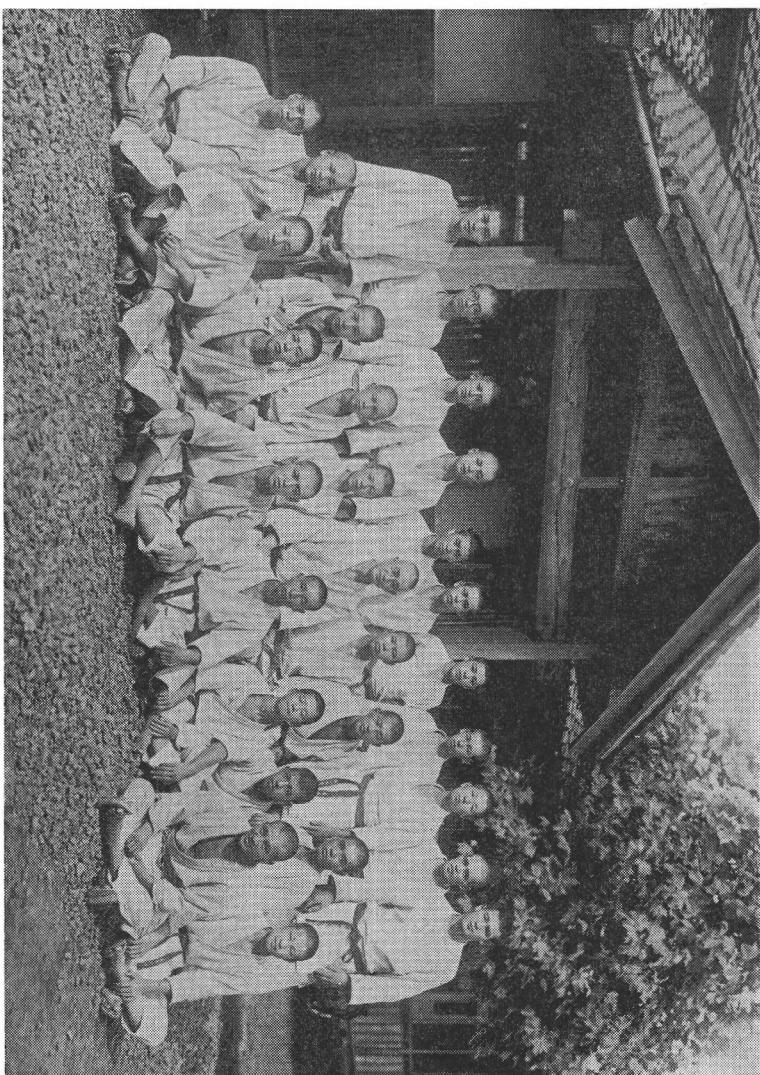
回 想

山 崎 高

昭和十八年と申しますと、十六年十二月八日、あの大東亜戦争が勃発し、正に戦い酣の頃で、十七年の学生から九月に緑上げ卒業が実施され、我々も同様九月卒業で学窓を去った訳です。その為實際には十七年十月より一ヶ年最高学年に在った事になります。

当時、塾に於ては二十三部五俱楽部と云う体育会各部が存在して居たのですが、外来スポーツは諸般の事情から余り良く見られませんでした。何しろ学生生活も軍事教練に、勤労奉仕に、その時間の大半を奪われ、テニス等の外来スポーツは配属将校より目の敵にされ、テニスの主将であった隅丸君等は散々やり合つたけれども、体育としてテニスの効用は認められず、大いに憤激して居た様な時代でした。が我々の様な古来の武道である柔道に於いては大いに将励されました。

併し戦争が激しくなるにつれ、学生の徵兵延期の制度も次第に制限され、その為学生柔道界の雄も次々と戦場にかかり出された為か学生全般のレベルも私達の時代から急激に小粒になつた様です。塾に於ても御多聞に洩れず、学生柔道界の超弩級であった飛田五段が徵兵延期切れで学窓を去り、羽鳥五段が卒業した為、どちらかと云うとどんぐり揃いと云つたメンバーになつてしましました。それでも十八年四月中學界の雄隅丸三段等を迎え、二年生に大館、吉川



野田春風館合宿（中野栄三郎氏を中心）

君等有望な若手が居りましたし、又十八年組には強者こそ居ませんでしたが、人数も結構多く仲々まとまりがありましたし、稽古にも遊びにも、選手もそうでない連中も常に一緒に、大変楽しい部活動が出来ました。

さきに前年より九月卒業の事は申上げましたが、その為、我々が年間の最大目標として居りました早慶対抗戦は例年の十一月より、前年から六月に繰上げ変更される事になりました。

学生柔道界の小粒化も先に述べた通りですが、早稲田大学に就ても同様で決して恐るるに足りない状況でしたし、我々は相撲部より田内君、レスリング部より稻垣君等の斯界の強剛を頼んで臨時に稽古させ、同じ格闘技である為仲々の強さを發揮して居り充分成算があったのですが、結局は打倒の念願がかなえられず、私が敵副将本間君と引分けてしまい相手大将草野君を残して涙を呑み四連敗の憂き日を見た様な次第です。今想つても誠に残念ですが、仲々楽しい思い出もあります。

茲で一寸清水師範のことについてふれさせて頂きますと、我々が十三年塾の大学柔道部へ入学入部した年に先生は師範として塾に招かれて来られた訳で、謂うなれば、師弟であると同時に同期生である訳で、大変親しみが湧き、今でも十八年中心の旅行会等には大変失礼な話ですが同期生として参加して頂いて居ります。

最後に十八年卒業生の内で、秋元、滝沢、峰岸、田辺、成宮、田村、朝比奈の諸兄が大東亜戦争の犠牲者として、各戦場の華と散り、藤川君又先年病没致しました。諸兄の靈に謹んで哀悼の意を表しまして筆を擱きます。

敗戦の前後

石渡英二

昭和十六年十二月に大東亜戦争が始って以来、外地に於ける戦局の進展と共に、内地の様相も次第に、戦時色が濃厚になつていった。十六年に大学生修業年限の三ヵ月短縮が、始めて行われ、同一年度に前期、後期一期の卒業生が出ると云う変則な形となつた後、次の年度は短縮が六ヵ月に進み、十七・十八両年は何れも卒業期が九月に變つて、いたわけである。この後、更に進んで一年先輩である、山崎さん達を十八年九月に送つたのも束の間、その十二月には戦局の急迫に合わせるかの様に、医学部工学部を除き、徵兵期にあたる全員が、在学年度の如何を問わず召集を受ける所謂学徒動員が行われると云う状況にまでなつたものである。まるで水の流れが勢をまして色々なものを押流して行く様な有様であった。柔道部として最も重視していた早慶戦も十七年からは、初夏に変更して継続して來たものの前述の様な状況下で中断せざるを得なくなり、二十年の敗戦、夫に引続く学校柔道部の禁止令によつて、復活までの十年間長い空白の日々が続いたことになる。尤もこの間、或は講道館を或は至剛館を利用して、細々ながら火を絶やさずに受継がれていた裏には、数少い熱心な人達の大変な苦心と努力があつたことは記憶に止めて置くべきことであろう。

十八年当時の想出としては、寒稽古の朝食或は合宿中の食事など入手が難しくなつた際、笠原先輩の斡旋で魚藍坂附近の国民食堂で賄つてもらうことになり、部員が数台のリヤカーに積んで往復したこと、綱町道場に近い興武寮に（三綱寮改め）入つていた数人の部員も段々食物が手に入り難くなり、中でも肉食に慣れ育つた大館君が辛抱しながらも往生した様な顔をしていたことなど、兎角、喰ひ物に関することが断片的に浮んでくる。

甲組の部		審判 奥住三段		審判 奥住三段		幹事		役員	
審判	塩谷二段	丙・乙組の部	進級月次試合	丙・乙組の部	審判 奥住三段	樹井	下野川	山崎	本塚
9 ○ 耕	8 ○ 耕	7 水	6 永	5 ○ 永	4 ○ 永	3 中	2 中	1 中	野
田 田	田 野	井 井	井 野	井 野	井 野	武 男	武 男	武 男	武 男
富 耕									
弘 三				清					
内 股	合 技	合 技	引 分	合 技	大 外	松 刈	合 腰	大 内	内 刈
内 股	合 技	合 技	引 分	合 技	大 外	松 刈	合 腰	大 内	内 刈
小 池	中 村	○ 耕	水 田	川 野	小 島	○ 永	高 井	柄 木	柄 沢
義 喜	一 郎	富 耕			島 島				
澄 澄	一 郎	宏 弘	三 三	仁 宏	清 清	亮 亮	道 道		

三級の部			四級の部										
審判	横田三段	審判											
3 ○ 菅 成 伊	8 ○ 松 山 内 三 段	7 ○ 松 山 内 三 段	6 横 浦 川 原 行	5 横 浦 川 原 克	4 星 原 原 博	3 長 谷 原 新	2 山 部 口	1 堀 越 三 光	7 宇 都 宮 啓	6 奥 村 正	5 荒 磯 和	4 橋 本 憲	
原 宮 藤 秀 敏 智 一 夫 康													
体 落	体 落	引 分	背 負 投	引 分	体 落	体 落	引 分	小 内 刈	松 腰	押 込	引 分	大 外 刈	釣 込 腰
体 落	体 落	引 分	背 負 投	引 分	体 落	体 落	引 分	小 内 刈	松 腰	押 込	引 分	大 外 刈	釣 込 腰

甲組の部		無・乙組の部		進級月次試合		大將		副將		渡辺		清水	
4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1	真貴田	岡倉	岡倉
山	宇都宮	○	宇都宮	耕	枝	中	中	森	森	江	村	岡	○
岡	宮			田	村	村	村	江	江	江	賢次郎	重	光
啓				寅		嘉	一	達	夫	圭	人	藏	章
人				元		次	郎	夫	助				
体	引	大	内	引	大	外	引	大	合	大	落	引	優
落	分	内	返	分	外	刈	分	内	合	外	引	分	勢
○	樹	山	工	宇都宮	○	小	枝	水	中	小	○	森	高
田	岡	藤			○	池	村	野	村	島	大	川	平
富	啓	邦			○	義	賢	耕	嘉	常	坪	笠	西
弘	人	夫			澄	次	郎	三	一	弥	根	原	田
									仁	夫		野	田

右の結果進級せる者左の如し。
乙組へ編入
森江達人、水野耕三、小池義澄

4 ○ 岡倉
5 ○ 岡倉
6 岡倉
7 古屋 鴻

足 払 内 股
崩上四方 引分

○ 古屋 牧伊藤村
島義祐五郎
文鴻英郎

○ ○ 村村馬福宮飯田
松松松松場島沢復俊義繁治
二二文

引 分 大外卷 大外落 引 分 優勢 体落 先鋒 ○ 北
弓 分

矢荒三真北村 条坂村
吹木村

商工学校對青山学院(四年以下)

一月二十日 於 綱町道場

青山学院

先鋒 副將 大將 副將
永横商 工清 永井田
若堀渡月田
山岸岸岸
清山水水
錦織織
宇都宮岡
奥村

正司元人資三啓東昭洋光宏
元尾一章茂兒光宏
支約返大外刈引分
大内返送足払背負投
内刈抱分製婆固
大外落大腰副將
栗橋神本宮
瀬尾本野村
今泉本野村
水本野村
山本野村
村本野村
谷原原野村
藤谷諸野村
遠野村
本野村
本野村
本野村

四月九日 於 學習院
立花立花學習院

大將 副將

堀岡若 渡島山 清錦 錦村 奥宇 宇都山 福福馬 馬宮 宮飯
 田倉月 辺岸水 織織松村 宮岡島島場 沢沢田
 重宏光 東洋昭 啓復正 啓義俊
 茂蔵児 章資一尾 三二司 元人 文二

崩上四方大將 副將 引引体引引製婆合燕引引優引引大内刈引出足払大内返送襟絞分
 分分落分分固技返分分分勢分分引分引大内刈分

○武児研神龜戸戸伊伊松藤山岩寺土鹿一松松近立
 宮玉崎崎井田田藤賀平村口城岡岐島柳平平藤花

四級の部	甲組の部	丙・乙組の部	進級月次試合
5 ○ 4 3 2 1 清山佐佐清	6 5 4 3 2 ○ 1 宇都宇都山渡工	7 ○ 6 ○ 5 4 3 2 ○ 1 眞貴田吉野芝	○芝
水岸藤藤水	田岡辺辺藤	眞貴田沢上	
昭洋孝昭	富啓武邦	圭雄一	榮之助
尾一次尾	元弘人彦夫	助也郎	

払合引大外引	釣込腰引分	大外刈引分	釣込腰合	釣込腰引分	大外刈引分	釣込腰固	大外卷引	大外刈
卷技分外刈分								

○小清山星佐	○奥宇都耕山水渡	○永中眞貴野枝神
佐水岸原藤	村宮田岡野部	井村吉澤上村田
準昭洋博孝	正富啓耕武	喜一圭雄一賢五
之助尾一志次	司元弘人三彦	清喜一郎助也郎

四月十七日

	二級の部										三級の部											
右の結果、 乙組へ編入 芝菜之助 の如し。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	○	8	7	6	5	4	3	2	○	1	○	6	
倉島村藤野野野	岡福牧斎中中中中島島	三	小	飯	若	渡	渡	渡	渡	○	三	小	飯	若	渡	渡	渡	○	1	○	清	
金義五親 藏文郎平	孝三郎	東	義英一宏 一達郎陽兒	光	章																	水
引引袈婆固 分分返投股股	大内股股	内内股股	内内股股	引	移	払	引	引	引	大外刈											足払	

○	○	○	○	笠	笠	○	○	○	小	饭	成	松	上	松	上	○	○	○	○	○	○	
尾倉島村藤野原	岡福牧斎阿笠原	尾	倉	島	村	藤	野	原	原	浦	佐	成	松	上	松	上	○	○	○	○	○	○
次金義五親英之輔	孝三郎慶治	次	金	義	五	親	英	之	輔	芝	義	英	一	宏	敏	行	貞	吉	達	郎	陽	夫
雄藏文郎平																						三

	春季大会										紅白勝負										
	先鋒					紅					白					先鋒					
渡渡上松馬山村 辺辺原村場岸松	○	○	松	馬	山	村	小	宇	田	山	菅	枝	○	○	○	○	○	○	○	○	○
光敬洋復啓賢 章三一二元人							宇	都	岡	原	原	村									
上不跳釣引引引 四方不明腰分分分	引	引	引	引	引	引	優	製婆固	引	引	引	引									

○	佐	廣	廣	成	小	鈴	樹	樹	○	○	○	○	奥	水	中	白						
佐藤瀬瀬毛佐木田田田田	佐	藤	瀬	瀬	毛	佐	木	田	田	田	田	田	野	野	野							
英一郎雅臣													富	友	耕	武						

五月一日

島 牧 牧 島
 高 梶 依 益 岡 岡 岡
 山 中 橋 橋 子 田 村 倉 倉 村 村
 小坂 中中 橋橋 子田 村倉 村村
 副将 副將 ○○ ○○ ○○ ○○
 大将 成益 須高 岡岡 岡岡
 乙組へ編入 菅原 純 金 藏 五東郎
 甲組へ編入 田中利彦 祥太郎 藏資
 牧村五郎、岡倉金藏 上原英吉、小佐英一郎
 島白勝負の結果、進級せる者左の如し。
 体不引背負投大内返大外刈合技背負投
 引分不明分足払腰内股大内返大外刈合技
 大内刈落分明分足払腰内股大内返大外刈合技
 引分副将水森富上上池中阿柏柏横小
 谷谷岡沢条条原野部谷谷佐佐
 英賢英孝三郎保克
 男郎猛英之輔英男
 甲組へ編入 田中利彦 祥太郎 藏資

先鋒○高橋(草)予科高等部学部対予科、高等部対抗戦
 富上上上上上牧山柏阿依高梶梶小池小高橋
 沢条条条条条条村中谷部田田木村村佐(兄)先鋒
 体落優勢縦四方大内刈大外刈大外刈
 裂縫引分横四方引返足払腰内股大内刈大外刈
 固引分上四方引返足払腰内股大内刈大外刈
 引分大内返大外返背負投背負投背負投
 背負投合技合技合技
 ○成塩大峰猪猪小小小小村森森森森秋秋秋秋加上学
 辺毛山山岸原原川川川松岡岡岡元元元元藤原
 部

田大鈴田熊松矢坂○坂中金金金馬服○服○服伴大土土土赤
部和木口井本野本本村田田田場部部部町肥肥肥司(2)
(4)(4)(4)(4)(4)(4)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)

甲組の部		乙組の部												無級の部		進級月次試合		大将山崎	
2	1	2	1	○	12	11	10	9	8	7	6	○	5	4	3	2	1		
真貴	水	岡	岡		岡	岡	岡	鈴	戸	細	細		新	松	下				
田	野	田	田		田	田	木	川	谷	谷	田	崎	郷	郷					
圭	耕	田	田		田	田	木	川	谷	谷	田	崎	郷	郷					
助	三	田	田		田	田	木	川	谷	谷	田	崎	郷	郷					

大外返	引分	袈裟固	大外刈	大外返	袈裟固	小内刈	引分	袈裟固	袈裟固	袈裟固	袈裟固	袈裟固	袈裟固	大内刈	絞引	引分	不戦	引分	大将
○	奥	○	川菅	吉日	岡	鈴戸	○	手	○	細渡	○	○	新松	新		六月二十二日	草本	間(4)	
田	真貴	田	島原	東寺	田田	木川塚谷	辺田	崎田									野(5)		
友	圭			田	田	木川塚谷	辺田	崎田											
弥	助	弘昭	作助	複代貴和	欣信	昆	莊秀	富久	富										

三級の部		四級の部																	
4	3	2	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
渡	上成	松		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
辺	野	宮	村	水	水	水	水	毛	寺	木	瀬	岡	岸	岸	田	谷	谷	西	花奥
光	貞	敏	敬							昭	雅	富	正	敬	啓	洋	富	倖	房田
章	晴	夫	三							尾	臣	雄	博	一	人	一	弘	夫	道友哉弥
引	大外刈	大外刈	小外刈	大外刈	扒	扒	大外刈	引分	引分	釣込腰	大外返	引分	袈裟固	引分	足扒	袈裟固	抱分	小内外	

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横	渡	上成		吉	脇	佐	小	清	成	小	鈴	広	福	山	星	山	樹	指	○
川	辺	野	宮	川	屋	藤	佐	水	毛	寺	木	瀬	島	岡	原	岸	田	田	水野
克	光	貞	敏							和	寿	孝	准	昭	雅	富	正	敬	耕道哉
男	章	晴	夫							義	人	次	之	助	尾	臣	博	一	弘久

卒業生送別大会紅白試合

和夫、中野孝二郎

七月三日

先鋒
上野○岡星古西福○山花工芝○芝細○細後
野上上田原川谷島島房藤 谷谷藤 紅

肩大外返
袈裟固
背負投
引分
袈裟固
引分
大外刈
引分
大外刈
優勢
肩固
引分
先鋒
○清清馬馬耕耕○佐佐指指広広○鈴鈴成成高高水水○水水渡渡深
水水場場田田藤藤田田瀬瀬木木毛毛木木野野辺辺田田白

四級の部							進級月次試合						
6	5	4	3	2	1								
成	広	○	○	高	高								
毛	瀬	瀬	瀬	木	木								
雅													
臣													
送	引	釣	足	足	引								
襟	分	達	腰	払	払								
○	星	成	小	西	○	鈴							
原	毛	野	寺	谷	瀬	木							
博	雅	富	久	幸	敬	正							
志	臣	雄	夫	一	博								

七月三十一日

三・二級の部
丙・乙・甲組は六・五級へ混入。右の結果、進級せる者左の如し。

1	○	清	水	昭	尾								
4	3	2	清	水	浦	行	一						
谷	光	吉											
大	乙	組	へ	深	田	成	男	編	入	富	田	四	郎
外	組	へ	菅	原	寺	昭							
刃	四	級	へ	工	藤	邦	夫						
崩	四	級	へ	水	野	耕	三						
上	四	級	へ	飯	田	繁	治						
四方	四	級	へ	ア	部	英	之						
明	四	級	へ	阿	部	英	之						

普通部対芝浦電機工作所

十月五日 芝浦鶴見道場

普通部

芝浦工作所

先鋒
稻垣 小田 小田 小野寺 富久雄
稻垣 垣垣 田 田 豊

普通部
送襟絞 裳姿固 引分 先鋒 斎藤
大外返 裳姿固 引分 先鋒 斎藤
古宮 富田 一ノ戸

三級の部	四級の部	甲組の部
6 5 4 3 2 1 ○ ○ ○ 树 佐 若	9 8 7 6 5 4 3 2 1 山 成 成 山 飯 飯 飯	5 4 3 小 菅 川 枝
田 田 田 岸 藤 月	口 毛 毛 岡 田 田 田	池 原 島 村
富 洋 孝 宏	光 雅 啓	義 昭
弘 一 次 児	正 臣 人	澄 広 弘

大外刈	大外返	松腰引分	引分	返技
内股	松腰引分	背負投	背負投	

星横広樹山佐 原川瀬田岸藤 博克敬富洋孝 志男一弘一次
高山錦渡水山福岡水 岸木口綾辺野岡島田野
光啓武耕啓一欣耕 亮正彦三彦三人郎郎三
奥小菅 原田池原 義友昭 弥澄廣 一

先鋒
松崎
紅

第五十三回 秋季大会

十一月十四日

縱四方 先鋒○細谷

先鋒 小池義澄

普通部対商工学校戦

大將 副將
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
牧 牧 柏 柏 斋 松 小 小 上 高 高 富 富 平 平 枝
村 村 谷 谷 藤 浦 佐 佐 野 木 木 田 田 柳 柳 村

引卷引內

○ 杉 山 利 忠 雄 世	○ 志 保 沢 出 陣 学 徒	学年別トーナメント	副將 大將	成 中 飯 飯 樹 橫 松 佐 広 成 成 鈴 奥 稲 稲
				毛 野 塚 塚 塚 田 川 村 藤 瀬 毛 毛 木 田 垣 垣 垣
				英 孝 一 富 克 敬 孝 敬 雅 信 友
				臣 郎 陽 弘 男 三 次 一 臣 一 弥
足 不 払 明				引 引 十 内 優 引 大 引 裏 送 大 崩 優 引 引 体 肩 分 分 字 固 股 勢 分 刈 分 投 縵 妾 姿 勢 分 分 落 固
島 樹 田 倉 東 富 資 弘	普通部 ・商工連合		副將 大將	堀 岡 清 島 島 渡 渡 山 山 山 錦 飯 山 渡 福 奥
				田 倉 水 边 边 岸 岸 織 田 田 岡 部 島 村
				茂 金 昭 東 光 洋 啓 繁 啓 義 正
				英 藏 尾 資 章 一 三 治 人 文 司

富 高 沢 橋 英 郎	益 子 五 祥 潔 郎	隈 丸 太 依 田 太 郎 郎	上 阪 内 館 大 助	阿 (A) 予 一 英 之 輔	小 大 望 吉 北 加 西 本	山 小 橫 機 石
					佐 館 月 田 川 藤 村	内 坂 田 辺 渡
英 郎	五 祥 潔 郎	太 太 猛 猛	英 之 助	英 夫	準 三 和 英 一	晃 英
					助 郎 夫 次	旦 肇 実 平 二
体 合 落 技	合 上 落 四 方	内 外 刈 股	大 内 返	足 出 扌	合 扌 大 上 跳 優 小 外 刈	引 内 足 扌 足
					技 腰 外 刈 四 方 腰 勢	分 股 扌 腰 扌
○ 水 梅 谷 沢	○ 長 谷 川 井	○ 酒 小 樅 松 予 塚 村 尾	○ 牧 小 斋 高 伊 柏 松 予 村 林 藤 木 東 谷 浦 一	(B)	成 堀 中 清 飯	
					五 重 親 祐 保 行	毛 田 野 水 塚
英 誠 男 涉	一 郎	光 次 二 男 雄	郎 太 平 亮 英 英 一		臣 茂 郎 尾 曜	英 孝 昭 一 臣 三 郎 尾 曜

磯石杉志保沢	出陣学徒	○	富高益隈依上阿	予一	○	山小横磯石杉志保沢	出陣学徒
辺渡山沢			沢橋子丸田条部	(A)		内坂田辺渡山	

引背内足		小内外腕大外落	扒腰	大外扒	内股	腕關節	引分	腕關節	横捨身	大外扒	背負投	内股	体落
分負股扒		内刈纖	落	扒腰			分	落					

○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○
阿桐田五先	蟻安阿山五田桐先	木田部崎島岡山輩	敏義秀三勝	男也助高雄協治	小大望吉北加西本	佐館月田川藤村	一						
部山岡島輩	軍												

○
山小横
内坂田

優大合
勢外返技

○
蟻山安
木崎田